１０．医療連携部

はじめに

当院の医療連携部は、医療連携部長の下、①地域医療連携、②医療相談、③企画広報の３部門が置かれ、医師、看護師、ＭＳＷ、事務職員によって構成されている。３部門には、それぞれ室長が置かれ（いずれも併任）、協力して業務の運営にあたっている。３部門の業務はそれぞれ、①他医療機関からの紹介患者さんの受け入れ及び当院退院後の医療の継続支援、②各種医療相談、③病院広報誌の発行やホームページの運用管理、公開講座の開催支援を行っているが、それぞれの部門の仕事が相互に重なっており、医療連携部一体となって上記業務を行ってきた。

２０２０年１１月には入退院支援センターが開設され、現在４診療科(整形外科・外科・心臓血管外科、脳神経外科)の入退院支援を行っている。

なお、当院は「地域医療支援病院」、「がん診療連携拠点病院」としての機能を付与されており、この機能を継続していくためには、一定以上の紹介率・逆紹介率の確保、医療機器の共同利用、共同診療病床の確保、相談窓口の設置、がん情報の提供、がん相談、病病連携・病診連携の構築など達成しなければならない条件がいくつか存在するが、その多くは、医療連携部が現在担っている業務に属している。その意味で、医療連携部は当院の営業を支えている部門と言える。

また、地域医療連携システムの金鯱メディネットは、インターネット上で連携施設のパソコンから当院のカルテや画像などが閲覧できるシステムであり、その利用施設数は２０２０年３月末で９１施設（診療所 54、病院 17、訪問看護 3、薬局 17）となっている。

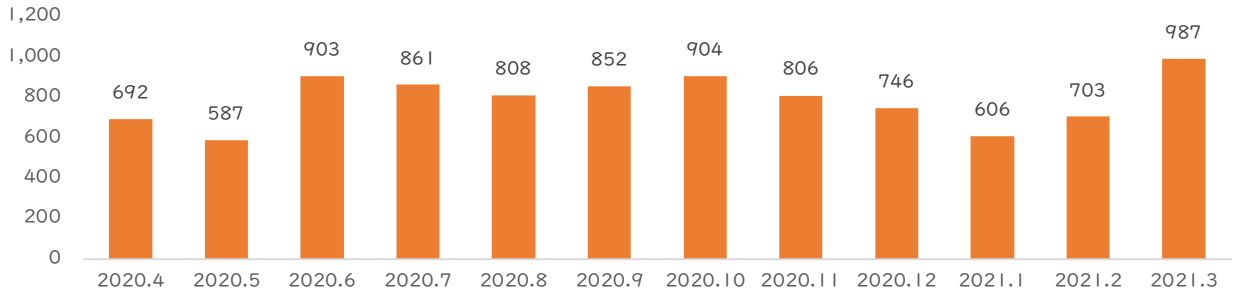
以下に、医療連携部における２０２０年度の実績を記述する。また、院内外で実施されている研究会・研修会の一覧もここに付記する。

２０２０年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、市民公開講座をはじめ、様々な研修会・研究会が中止となるなど影響が大きく、一部の会議はＷｅｂ会議への変更を余儀なくされた。

地域医療連携室

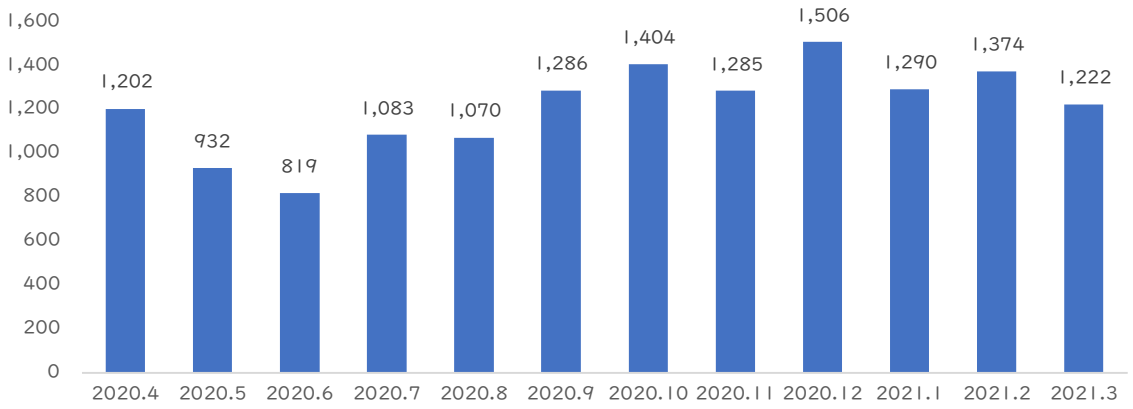
１．医療連携実績

１）2020 年度の紹介患者数の推移を示す



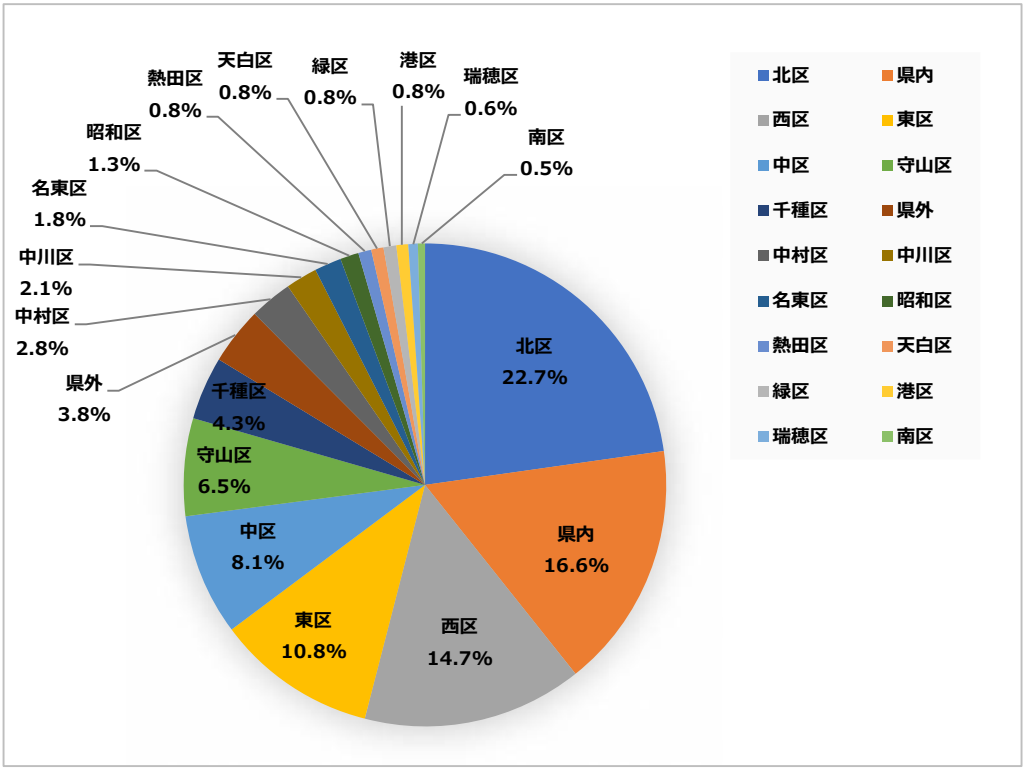
紹介率 84.9%

2）2020 年度の逆紹介患者数の推移を示す

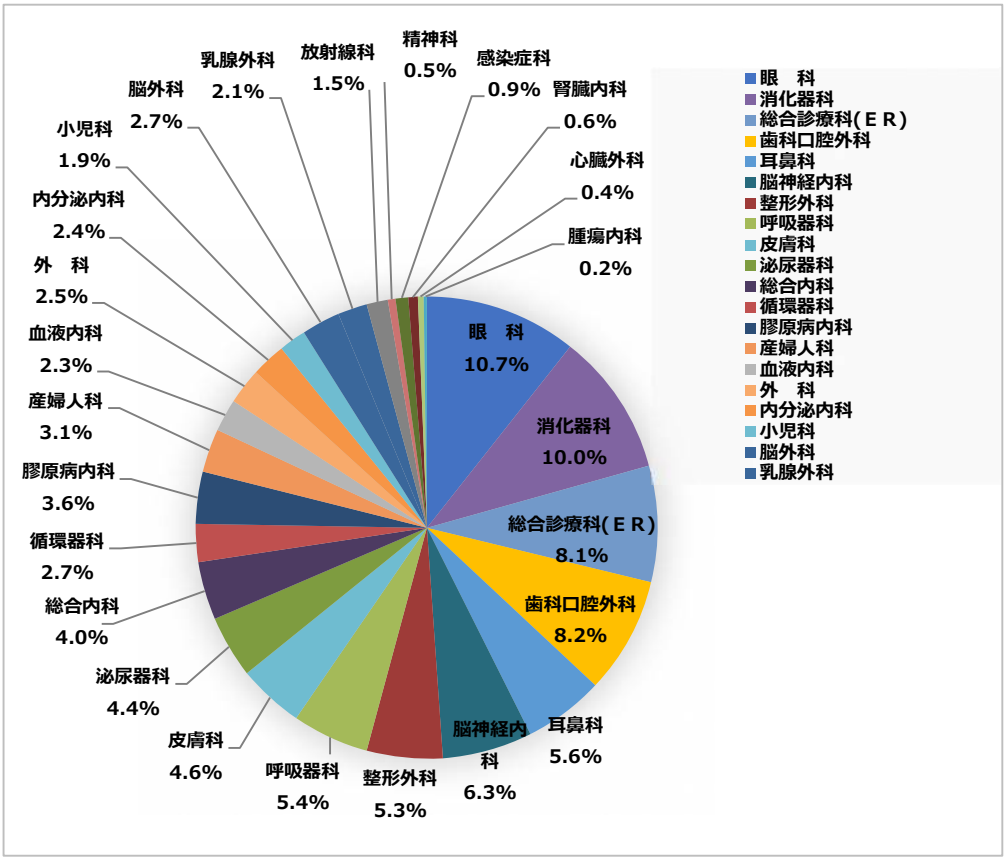


逆紹介率 133.0%

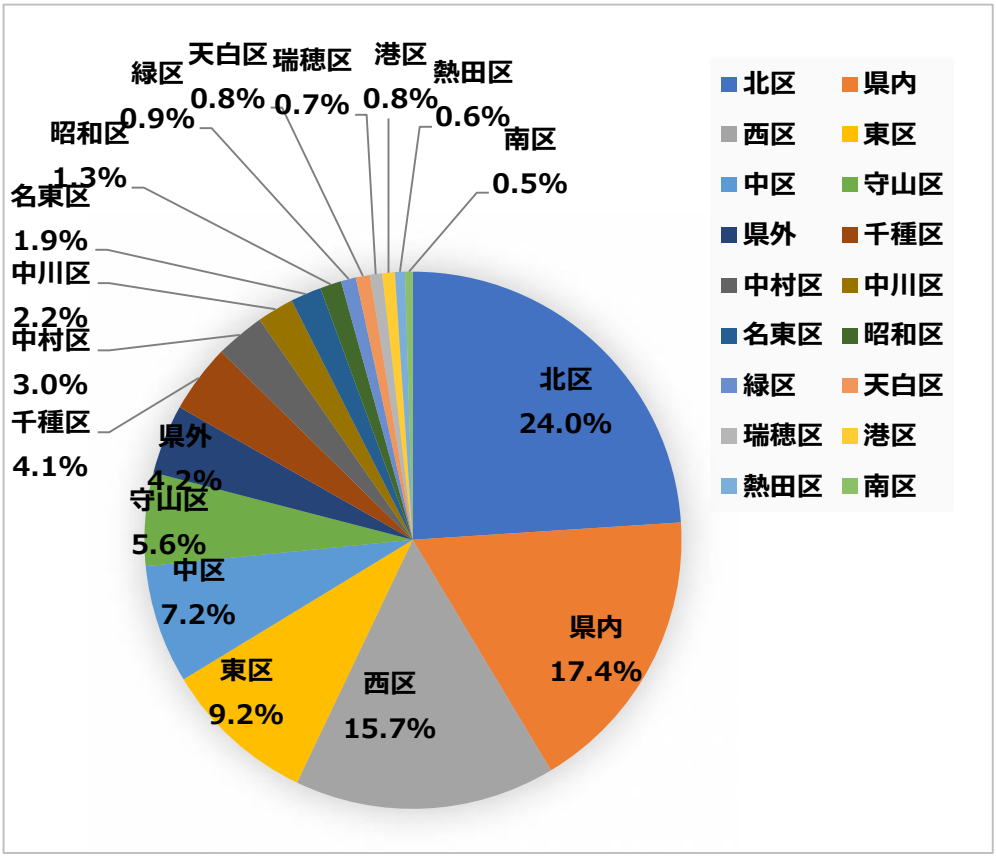
3）紹介患者の地域分布を示す



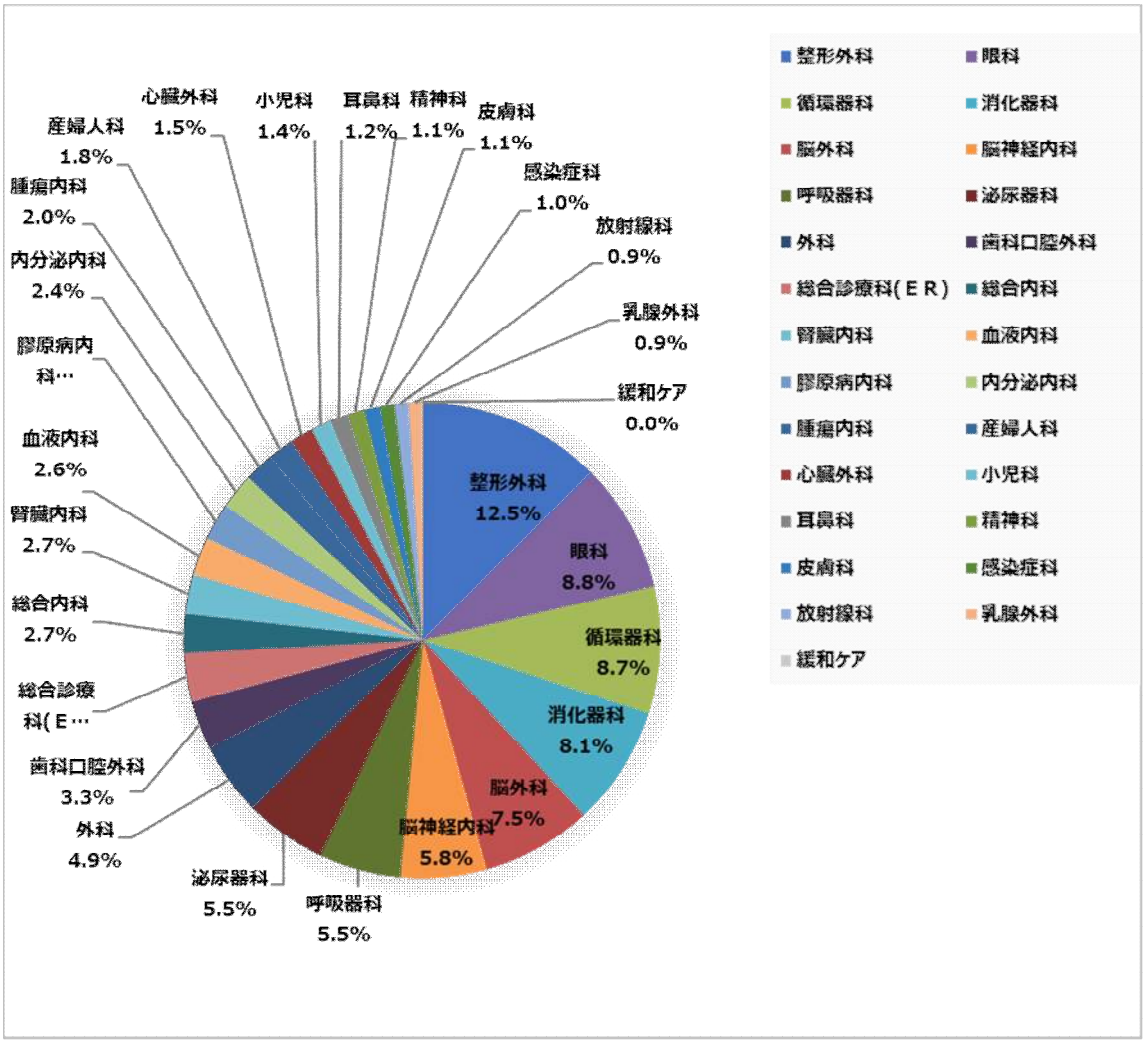
4）紹介患者の紹介先診療科分布を示す



5）逆紹介患者の地域分布を示す



6）逆紹介患者の紹介元診療科分布を示す



7）共同診療

当院では、名古屋市医師会病診連携システムの登録医と当院医師による共同診療及び指導を目的とした専用病床（開放型病床）を５床設置している。

〇2020 年度の開放病床利用による共同診療件数

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入院患者実数（人）	0	0	0	1	1	1	0	1	0	1	1	3	9
入院患者延数（人）	0	0	0	12	4	11	10	4	29	7	13	45	135
開放病床利用率(%)	–	–	–	7.7	2.5	7.3	6.5	2.7	18.7	4.5	9.3	29.0	7.4

8）共同機器の利用

〇2020 年度の大型機器共同利用件数

検査項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
MRI	1	2	5	2	4	8	5	4	5	4	6	10	56
CT	8	5	6	6	10	13	10	8	9	4	5	7	91
SPECT	2	3	4	3	2	3	2	2	4	2	0	1	28
PET-CT	1	1	2	0	1	2	4	0	2	2	1	1	17
合計	12	11	17	11	17	26	21	14	20	12	12	19	192

２．地域連携クリティカルパス会議

（大腿骨頸部骨折）※計画策定病院合同で開催
2020 年 12 月 9 日(水)18:00～19:00　Ｗｅｂ形式方式で開催。

（脳卒中）
2020 年 11 月 18 日(水)15:30～17:00　Ｗｅｂ会議形式で開催。

３．名古屋市医師会病診連携システム運営協議会

2020 年 9 月 9 日（水）に定例の病診連携システム運営会議を web 会議形式にて開催した。
議題
１．2020 年度病診連携システム実績報告
２．ＩＴと地域連携
３．その他

４．医療連携交流会

院内外での医療連携促進を目的に講演や意見交換会を行う交流会。2020 年度はコロナウイルス感染拡大の影響で中止。

５．地域医療支援病院運営委員会

今年度は 3 回の定例の地域医療支援運営委員会を web 会議形式にて開催した。

○第一回　新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止。
日時　2020 年 5 月 13 日（水）　14:00～15:00
場所　名古屋医療センター　管理棟５階　第１会議室

○第二回　Ｗｅｂ会議に変更
日時　2020 年 9 月 9 日（水）　14:00～15:00
場所　名古屋医療センター　管理棟５　第１会議室

○第三回　Ｗｅｂ会議に変更
日時　2020 年 11 月 11 日（水）　14:00～15:00
場所　名古屋医療センター　管理棟５階　第１会議室

○第四回　Ｗｅｂ会議に変更
日時　2021 年 2 月 10 日（水）　14:00～15:00
場所　名古屋医療センター　管理棟５階　第１会議室

６．研修

2020 年度研修・協議会・検討会等開催状況
多くの研修・協議会・検討会がコロナウイルスの影響により中止となった。

2020年度　研修・協議会・検討会等開催状況

会　議　名	開催回数（年間）	登録医等参加者			院内参加者			その他（市民等）	
		小計	医師	医師以外	小計	医師	医師以外		
市民公開講座（シンポジウム）									コロナの影響で中止
地域医療連携Ｗｅｂ意見交換会	9	81	70	11					
ＨＩＶカンファランス									コロナの影響で中止
HIV研修会									コロナの影響で中止
乳腺症例検討会	6				78	36	42		10月より再開（院内スタッフのみ実施）
胃腸疾患検討会	20				360	340	20		
名古屋市救命救急士研修会									コロナの影響で中止
病院での在宅医療研修会									コロナの影響で中止
緩和医療研究会									コロナの影響で中止
緩和ケア研修会	1				12	12			
放射線療法・化学療法の推進に関する研修会									コロナの影響で中止
肝・胆・膵疾患検討会	20				360	340	20		
マンモグラフィ読影講習会									コロナの影響で中止
デジタルマンモグラフィ講習会									コロナの影響で中止
愛知県乳がん検診研究会	2	65	13	52	15	6	9		
乳腺超音波講習会									コロナの影響で中止
乳腺超音波更新講習会									コロナの影響で中止
マンモグラフィ技術講習会	1	29		29	3	2	1		
合　計	59	175	83	92	828	736	92		

７．金鯱メディネット

インターネットを利用した地域医療連携の運用を行っている。

このシステムでは参加登録された医療機関において当院の電子カルテや画像を閲覧できるシステムであり、地域の診療所等との連携を図っている。

〇金鯱メディネット登録施設数（2021 年 3 月末現在）

・91 施設　（診療所 54､病院 17､訪問看護 3、薬局 17）

〇金鯱メディネット意見交換会

・新型コロナウイルス感染症拡大のため開催中止

８．金鯱友の会

「金鯱友の会」と名付けて、職員との交流や親睦を図るとともに医療、保健などの新たな情報発信の会を設け、主に会員の方を対象にした講演会・勉強会を開催している。新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、講演会・勉強会を中止した。

企画広報室

１．市民公開講座

2019 年度は名古屋市内３機構病院合同市民公開講座（名古屋医療センター・東名古屋病院・東尾張病院）と名古屋医療センター開催の 2 回開催したが、2020 年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止となった。

２．広報誌の発行

2020 年度は 6 回発行し、患者さん及び連携医療機関へ情報発信をした。

発刊号	発行月	巻頭言	ドクターよもやま話	職場紹介		トピックス	医療最前線	連携医紹介
第94号	2020.5	『新任の挨拶』 副院長 富田 保志	『副院長退任の辞』 前副院長 奥田 聡	－	－	新任医師紹介	『予後不良の遺伝子異常を持つ急性白血病に対する分子標的薬が新登場』 血液内科医師 平野 大希	おなか 内科 東白壁クリニック 院長 杉田 裕輔 社会医療法人 大真会 大隈病院 院長 家田 秀明
第95号	2020.7	『働きやすい環境づくり』 看護部長 内山 忍	『脊椎脊髄外科』 脳神経外科医師 安藤 達	臨床工学室	西9階病棟	『認定看護師の紹介』 ・認定看護師（集中ケア） 『COVID-19 心温まる支援をいただきました』	『新しい自己血糖測定法(FGM)について』 糖尿病・内分泌内科医長 山田 努	医療法人香徳会メイトウホスピタル 院長 本田 圭祐 しらかべ内科 糖尿病・高血圧・甲状腺クリニック 院長 伊藤 崇浩
第96号	2020.9	『コロナについて～思うままに』 統括診療部長 片岡 政人	『AYA世代のがん』 小児科医長 前田 尚子	医療安全管理部	東7階病棟	『名古屋医療センターTQM活動について』	『薬剤耐性菌とは』 総合内科医師 林 雅	名古屋北区訪問看護ステーション 名古屋中・東訪問看護ステーション
第97号	2020.11	『臨床研究について』 臨床研究センター長 永井 宏和	『レントゲン博士からIMRTへ』 放射線科医長 加藤 恵利子	栄養管理室	特室病棟	『認定看護師の紹介』 ・認定看護師（慢性疾患看護） ・認定看護師（糖尿病）	『治療のキモは?～肝臓の手術について～』 外科医長 末永 雅也	独立行政法人国立病院機構東名古屋病院 院長 今井 常夫
第98号	2021.1	『新年のご挨拶』 院長 長谷川 好規	『歯ぎしり・かみしめは危険!』 歯科口腔外科医師 荒川 美貴子	相談支援センター がん相談支援センター	東4階病棟	『国立病院総合医学会を開催しました』	『骨粗鬆症は注射でより強力な治療ができる時代に』 医療情報管理部長 佐藤 智太郎	かきや内科 糖尿病・甲状腺クリニック 院長 垣屋 聡
第99号	2021.3	『働き方改革雑感』 事務部長 古山 雅博	『不思議な数式で肝硬変に進行する脂肪肝を診断する』 エイズ総合診療部長 横幕 能行	放射線診断科 放射線治療科	西7階病棟	『名古屋看護助産学校の閉校にあたり』 副学校長 寺西 正美	『消化器がん 薬物療法の最新情報』 腫瘍内科医師 杉山 圭司	中日病院 院長 横井 香平

医療相談室

1.はじめに

２０２０年度は、山田（非常勤）、瀬口、橘、浅海、矢嶋、西嶋、坂本、鈴田に加えて、５月より高橋が新規採用されソーシャルワーカー９名、花木がん性疼痛看護認定看護師１名、中江（非常勤）伊藤（非常勤）早川（非常勤）事務員３名の総勢１３名で業務はスタートした。その後８月に浅海、矢嶋、西嶋が入退院支援室へ異動、１２月で浅海が退職、３月に高橋も入退院支援室へ異動となり、院内の組織改編がおこなわれた。

病院全体としては、MSW の病棟担当制が定着し、地域医療連携室や退院調整看護師とも協力して退院要支援者の早期把握、退院支援カンファレスの開催、早期面談などの実施で、病棟ともより積極的に連携を図りながら早期に退院支援を進めることができた。

個別援助業務においては、退院援助・支援が大半を占めており、患者、家族の社会的背景、問題も複雑化かつ多様化し、退院援助にかかる時間や労力も増大傾向となっている。平均在院日数の短縮化も求められる中、MSW のみでなく他職種と連携しながら退院支援していくことがさらに重要と考えている。病棟集約や新型コロナウィルスの影響で入院患者の減少により、ケース数は減少している。

がん診療連携拠点病院の相談支援センターとして、がん相談も院内外の相談に対応した。昨年度に引き続き花木がん性疼痛看護認定看護師を含め、緩和ケアチームと共に対応する症例が多く、入院は退院支援、外来・院外は経済的問題、治療・症状に対する相談が多かった。また、外来時から今後を見据えての療養相談にも多く対応した。がん相談専用ダイヤルでは院外のがん患者、家族からの電話相談にも対応した。

またがんサポート活動の業務も行っており、平成２７年度より地域活動として名古屋市療養サービス事業団が公益事業として運営する「まちかど保健室」にて出張がん講座の企画、がん治療体験者による療養相談会の開催、がん患者・家族を対象にした学習会の企画・開催、緩和ケア週間のイベントの企画運営、療養と就労の両立支援を図るための社会保険労務士と共同した就労支援相談会の企画・開催を行っている。今年度は新型コロナウィルスの影響のため「まちかど保健室」の２回のみで、その他は開催ができなかった。（「ピアサポーターによる療養相談会」「やすらぎ勉強会」「就労支援相談会」「緩和ケア週間イベント」）

相談支援センターの周知・広報のため、昨年度に引き続き、社会福祉協議会が発行する広報誌「ふれあい名古屋」に当相談支援センターの案内を掲載し、地域への広報活動も行った。やすらぎサロンの活動状況やがん関連の情報などについて、年２回「やすらぎ通信」という形で広報誌も発行した。

２０２０年度の具体的な業務の取り組みについては、以下報告する。

２.業務報告

１）報告にあたって

２０２０年度における医療社会事業業務は当院の「医療社会事業運営要領」に基づき、医療社会事業委員会において審議・決定された「医療社会事業業務指針」および「ソーシャルワーカーの業務基準」、さらに平成１４１１月２９日に健康発第１１２９００１号をもって発せられた厚生労働省健康局長通知「医療ソーシャルワーカー業務基準」を根拠に行ったものである。

報告のかたちについては、「業務基準」に照らし合わせ整理して列挙した。

なお、８月以降は入退院支援室と合算して集計している。

２）個別援助（ケースワーク業務）

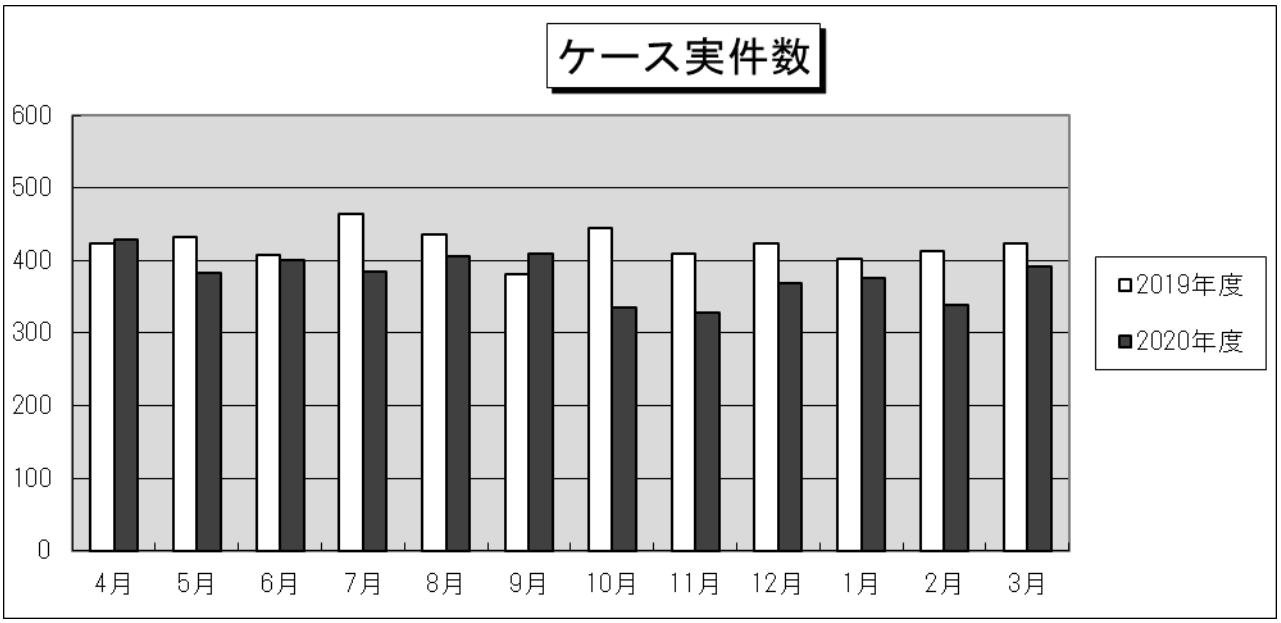
ＭＳＷの主要業務である患者や家族に対する個別援助業務について、本年度の状況を概観してみた。

① 実ケース及び延べケースの月別件数

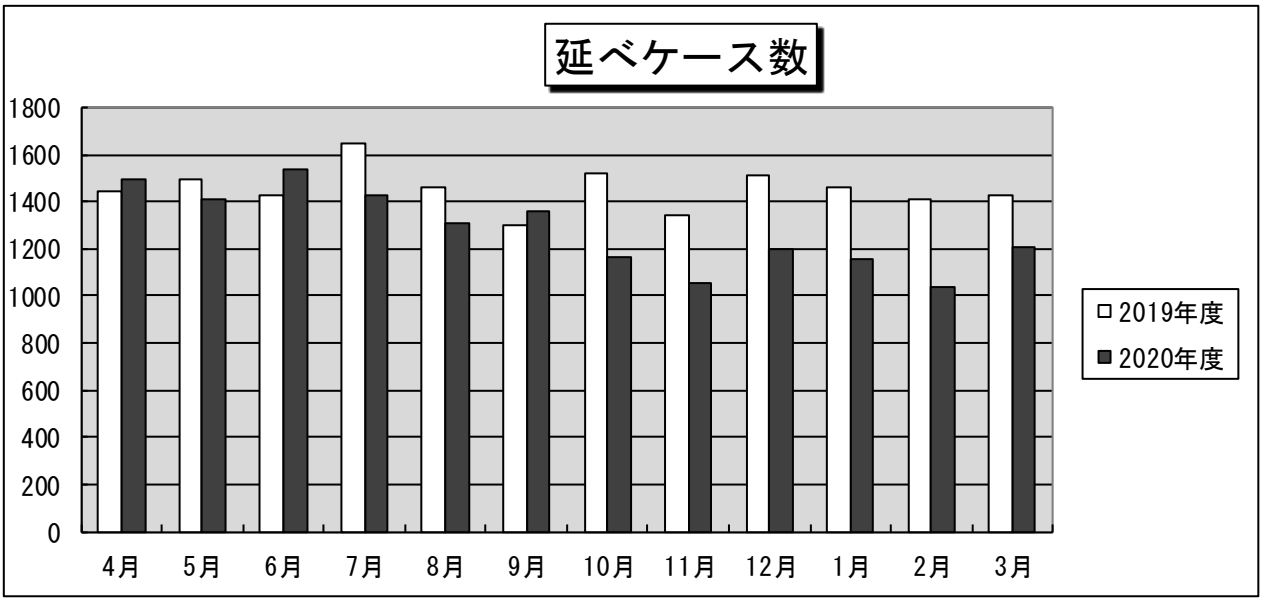
実ケースとは、その月に実際に取り扱ったケース数であり、延べケースとは、そのケースについて何らかの措置を行った日数の積算である。

２０２０年度は全体で、実ケース数が 4544 件、延べケース数が 15359 件であり、昨年と比較すると

実ケースが 516 件（10.1%減）、延べケースが 2106 件（12.1%減）減少している。病棟集約の影響で入院患者数が減少したため MSW 実ケースも減少したと考えるが、減少割合は 2.4%と低い。



	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
2019 年度	423	433	407	464	435	381	445	410	423	403	412	424	5060
2020 年度	428	382	400	384	406	409	335	328	368	375	338	391	4544



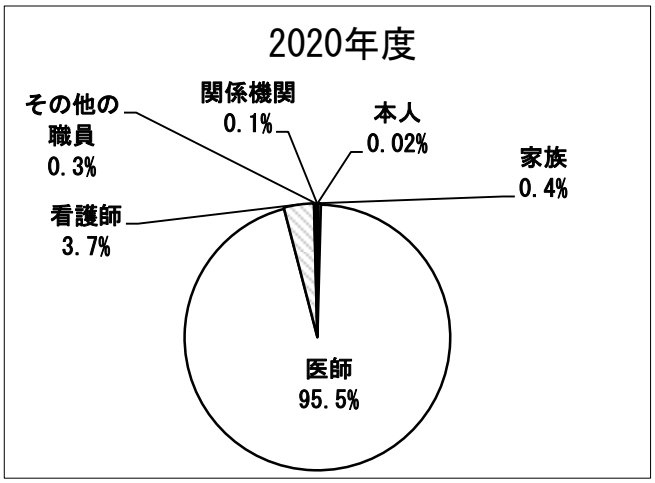
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
2019 年度	1441	1499	1431	1651	1462	1300	1520	1345	1514	1463	1408	1431	17465
2020 年度	1499	1408	1536	1428	1311	1356	1161	1055	1198	1160	1037	1210	15359

② 実ケースの紹介者別件数

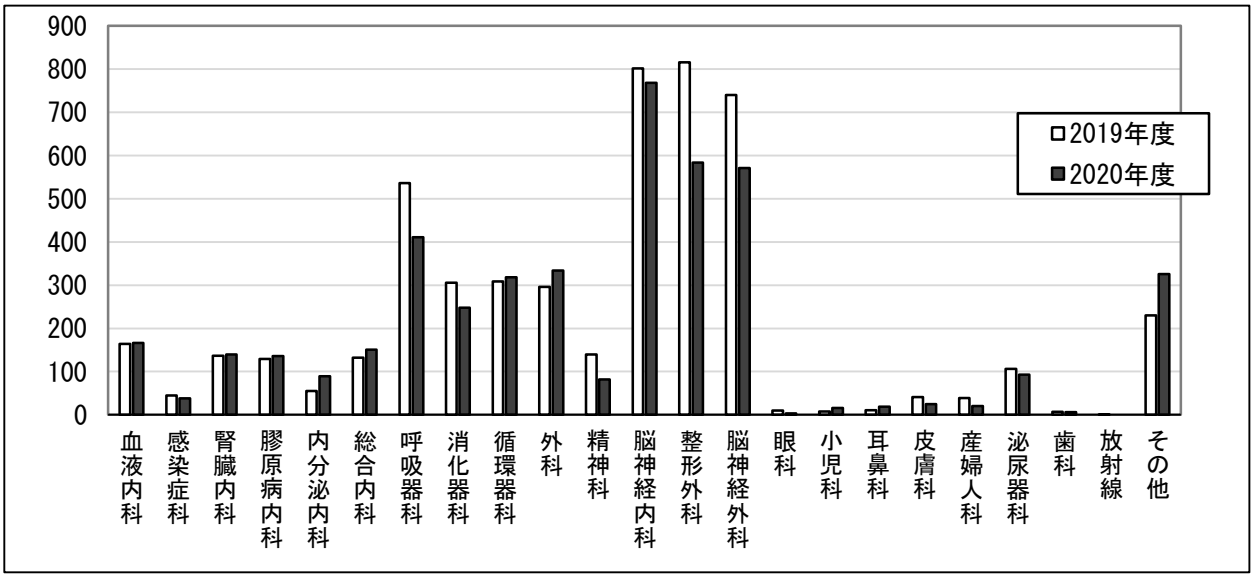
実ケースの「紹介者」とは、ワーカがケースを受け付けた直接の相手方と定めている。例えば、医師の意思を受けた看護師がケースを紹介してきたときでも、特にことわりがなければ紹介者「看護師」となる。従って、医師・看護師からの紹介は両者の合計数によって判断されるならば幸いであ

る。今年度も医師・看護師からの紹介は約 99.2%と高値を示している。
※「関係機関」とあるのは、福祉事務所、保健所などを主として、福祉に関する役所や施設などをいう。

	2019 年度	2020 年度
本人	8	1
家族	11	18
医師	4904	4341
看護師	124	166
その他の職員	13	13
関係機関	0	5
他の医療機関	0	0
その他	0	0
合計	5060	4544



③ 実ケースの診療科別件数
脳神経内科、整形外科、脳神経外科の順に多く、この 3 診療科で全体の約 40%を占める。直接 ADL 低下を来たす疾患が多く、退院困難な要因となっている。昨年度と比較すると脳神経外科 22%、整形外科は 29%と大きく減少している。その他の診療科の大半は腫瘍内科が占めている。

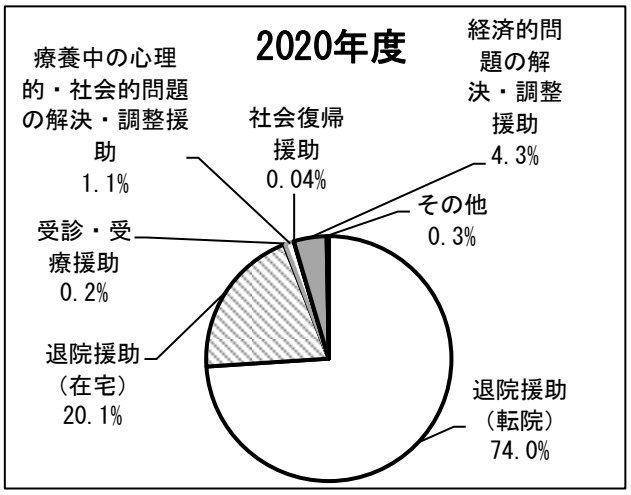


	血液内科	感染症科	腎臓内科	膠原病科	内分泌科	総合内科	呼吸器科	消化器内科	循環器科	外科	精神科	脳神経内科	整形外科	脳神経外科	眼科	小児科	耳鼻科	皮膚科	産婦人科	泌尿器科	歯科	放射線	その他
2019年度	164	45	137	129	55	132	536	306	309	296	140	802	816	740	10	8	11	41	39	106	7	1	230
2020年度	166	38	140	136	89	151	411	248	318	334	82	768	584	571	3	16	19	25	20	93	6	0	326

④　実ケースの内容別件数

ケースの内容を「医療ソーシャルワーカーの業務基準」の分類によってまとめると下表のようになる。相談内容は、ここ数年来の傾向通り、退院援助（転院・在宅）が全体の約９割以上を占めた。

	2019 年度	2020 年度
退院援助（転院）	3785	3361
退院援助（在宅）	1055	913
受診・受療援助	4	7
療養中の心理的・社会的問題の解決・調整援助	48	52
社会復帰援助	4	2
経済的問題の解決・調整援助	154	196
その他	10	13
合計	5060	4544



⑤　措置の手段

問題解決のためにワーカーがどんな手段を用いたかを示すと次のようになる。

「面接」は持ち込まれた患者や家族の「問題を解決するために明確な意図を持って意識的に行われる話し合いである。」（メアリー・リッチモンド）と定義されている。したがって、言語を媒介にしてワーカーと患者、家族、関係者との間で、信頼関係を基礎に状況判断、援助方針の設定、措置などが行われる個別援助（ケースワーク）業務の中心的手段である。

「合同面接」とは、ケースの直接的な調整を図る目的で、ケース側（患者や家族）とワーカーに加え、院内職員や関係機関など三者以上で行われる面接をいう。

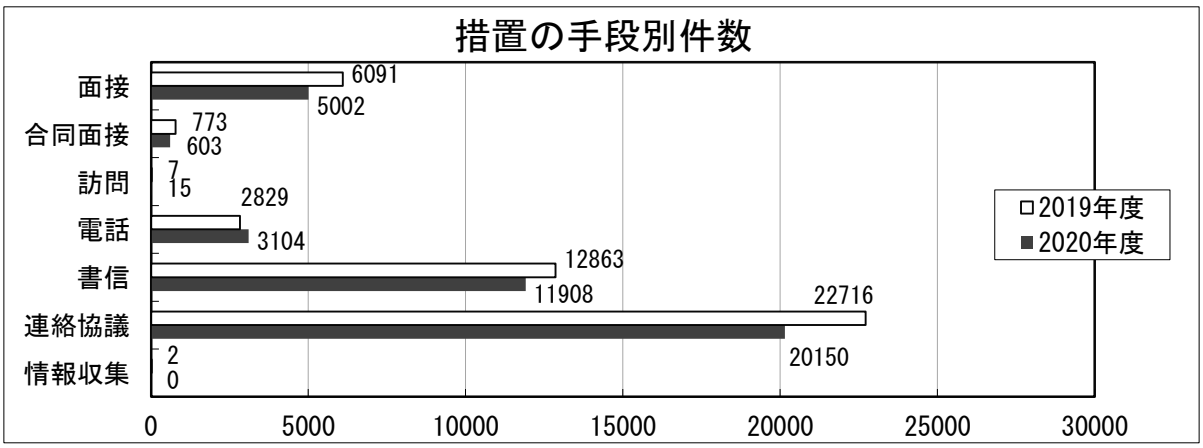
「訪問」とは、ケースの解決のためにワーカーが必要な手続きを経て、患者の家庭、勤務先、その他関係者などを訪れ、状況把握や調整行為を行うことをいい、病棟訪問など院内を行き先とするものは含まれない。

「電話」とは、患者や家族に対して面接には至らない程度の簡単な内容伝達を電話で行うことをいう。

「書信」とは、通常の概念による意志伝達手段に加えて、カルテへの記載、報告書等も含めている。

「連絡協議」とは、ワーカーから院内職員等への情報収集、問題解決に向けての協議などを指す。

２０１９年度の総措置件数は 45281 件に対し、２０２０年度の総措置件数は 40782 件と 4499 件の減少をしている。２０２０年度は病棟集約や入院患者数の減少が影響をし、全体的に件数が減少している。



	面接	合同面接	訪問	電話	書信	連絡協議	情報収集	合計
2019 年度	6091	773	7	2829	12863	22716	2	45281
2020 年度	5002	603	15	3104	11908	20150	0	40782

３）個別援助業務以外の業務

２０２０年度も個別援助（ケースワーク）業務が中心ではあったが、それ以外の業務も、以下の通り行ったので報告する。

院内外の会議やカンファレンスでは地域連携、疾患毎の専門性（がん、精神、神経難病など）、虐待など MSW の専門性を求められる領域が広がっている。

特に入退院支援加算１施設基準取得にて退院支援カンファレンスの実施が必要となり、院内カンファレンスへの参加が大きく増えている。地域連携診療計画加算のため病院訪問も行い、連携強化に努めた。

	内容分類	具体的内容	2020 年度
院内業務	常例的業務	患者サポート体制に係る相談	1291
		上記以外の相談（情報提供・問い合わせ・調整等）	1078
		来客対応（福祉事務所関係者、他病院関係者等）	22
		がん相談	551
	院内会議への参加	診療・病床管理・医療社会事業・がんｾﾝﾀｰ・治験 地域連携推進・退院調整・リハビリ・行動制限　等	142
		診療科ｶﾝﾌｧ、退院支援ｶﾝﾌｧ、患者サポｶﾝﾌｧ　等	1175
地域活動	関係機関等との会議	国立療養所病院協議会・難病ﾈｯﾄﾜｰｸ・がんパス 地域連携パス運営会議・児童虐待・HIV 拠点　等	7
	その他の地域活動	市民公開講座・医療連携交流会・無料 HIV 検査会　等	0
		病院訪問	2
研究教育	学会・研修会等への参加	在宅医療連携研修会・がんﾁｰﾑ医療・ﾌﾞﾛｯｸ MSW　等	6
	講義・実習指導など	研修医見学、JNP 見学、学生見学、大学講義　等	20
合計			4294

※常例的業務の中の患者サポート体制による相談やがん相談は、個別援助業務を除く複数回の相談を必要としない患者・家族からの直接相談ケースである。

４）がんサポート活動

がん診療連携拠点病院として、がんに関する患者活動支援、地域活動などがんサポート活動を行ったので、以下の通り報告する。新型コロナウィルスの関係で、相談会や学習会は開催中止となった。

がんサポート活動内容		2020 年度
がん治療体験者による相談会（ピアサポーター）		0 回
社会保険労務士による就労相談会		0 回
やすらぎサロン	患者、家族向け学習会（奇数月）	0 回
	やすらぎ通信	2 回
まちかど保健室	がん出張講座	2 回
緩和ケア週間イベント		0 回
合計		4 回

※「がん治療体験者による相談会」

毎月第 3 水曜日に外来棟１階ホールで、がん治療体験者やそのご家族が、体験からの学びを生かし、新たにがんになった患者さんやご家族をサポートするための相談会を開催している。

※「社会保険労務士による就労相談会」

がん患者さんの中には治療と就労の両立に悩みや不安を抱えている方も少なくないため、３か月に１回第 3 水曜日に社会保険労務士による就労相談会を開催している。

※「やすらぎサロン」

患者さんやご家族、同じ悩みを抱えている方々が語らえるやすらぎの場として平成２２年２月、サービス棟１Ｆ食堂横に開設。がん関連の書籍や冊子、インターネット閲覧なども出来、情報収集の場にもなっている。事務員を配置し、平日 10 時～15 時まで常時開室している。

※「まちかど保健室」

名古屋市療養サービス事業団が運営している公益事業で、地域住民に対し、保健・介護相談事業、健康づくり講座、認知症カフェを実施している。